

大館市五色湖エリアにおける民間活力導入に向けた
サウンディング型市場調査結果の公表

令和8年9月24日

1. 調査の目的

キャンプ場や簡易宿泊施設が整備されている五色湖周辺エリアにおいて、市ではアウトドアフィールドとして総合的なリニューアルを図るための再整備計画を検討してきました。民間企業による同エリアの持続可能な管理運営を目指すうえで、参画意欲や、暫定利用などのアイデアを収集することを目的に、民間事業者等の皆様から幅広く、ご意見、ご提案をいただくため調査を実施します。

2. スケジュール

実施要領の公表	令和8年2月17日
冬季現地見学会の開催	令和8年3月10日
春季現地見学会の開催	令和8年5月26日
サウンディングの実施日	令和8年7月21日～7月24日

3. サウンディングの参加者

- (1) 冬季現地見学会参加者 4社
- (2) 春季現地見学会参加者 3社
- (3) サウンディング参加者 2社

4. サウンディング結果の概要（参加者からの意見・提案等）

対話項目	A社
参画の意向、関心分野	1、安全なための獣害対策 2、エリア全体のカーボンニュートラル化 3、五色湖ロッジのエネルギー効率化のためのリノベーション 1、獣害対策として、AI監視カメラを用いた対策の提案 →カメラが熊を検知すると、担当者へ連絡が入るシステム →AIカメラを設置する際に、東京ではデジタルサイネージも設置し、広告料金もらうという運営をしている事例がある。 →熊検知をすると無線（200km）で飛ばすことができるメーカーもあり。

	→カメラの範囲は 5～10mほどであり、離れば離れるほど精度は落ちる。 →山形県朝日町での熊対策も参考になると思われる。 →熊対策について自然の中で、実証実験を行い、実績が出れば市街地でも導入できるのではないか 2、カーボンニュートラル化のための、太陽光発電・蓄電池を用いたエネルギー利用 →景観の影響も考える必要あり。蓄電池の貸し出しは可能そうである。 →E V車の充電器について持ち運び式急速充電器もある。 3、五色湖ロッジのエネルギー効率化のためのリノベーション →インフラ整備に関しては、公費での対応としていただきたい。 →設備投資改修を考えると補助金の活用を検討しなければいけないと思料。
スモールスタート	考えられるリスクとして、事業を行うための市の予算調達が挙げられる。 AI や、太陽光発電について実証実験を行うことで、数字データを取ることができ、リスクの削減も可能と考えられる
提案サービス	消費電力の見える化を行うことで、子どもへの学習コンテンツとしてもできるのではないかと(野遊びSDGsという事業であることから、「持続可能」をどう表現するか)
段階的整備に関する意見	施設の老朽化等の状況が読めない場合、なかなか事業者の参加は厳しいのではないかと そのため、行政財産使用許可や、指定管理制度などを用い民間負担が少ないところから実証を進めていくべき。 施設をどのように維持をしていくのかというビジョンや、収益管もわからなければ、提案側は、商材を並べるだけになってしまう。
市への期待・要望	負担区分等の割合は考えていただきたい(物価変動による負担など民間のリスクがある) 料金の設定の自由化は検討いただきたい。
その他	キャンプ場のコンセプトについて不便さを楽

	しむ施設としてのキャンプ場か、お手軽にキャンプを楽しむ施設かなど、今一度、考えてみてはどうか お手軽にキャンプを楽しむ施設とする場合、開発費用は高くなってしまうと思料。 自治体総合フェアが東京ビッグサイトで7月7、8、9日に開催した。 そこで、自治体を持つ様々な悩みと企業のマッチングを行っている。参加を検討してみてはいかがか。 予算を減らすために、包括管理委託→北上市で取り入れている。費用・負担削減が進んでいる様子である。参考にされたい。
対話項目	B 社
参画の意向、関心分野	野遊び SDGs で作成された調査資料や写真・映像等は、可能であれば今後の情報発信等に活用したい。 スケールが大きい施設であることから、各事業者が得意とする事業を合わせて運営を行っていくことが望ましいと考える。 弊社は、ブランディングと情報発信を得意としていることから、五色湖エリアのコンセプトづくり、パンフレット等による情報発信に関わりたい。
提案サービス	利用しやすい仕組みづくりに関して、行政窓口を通した予約・利用申請は心理的ハードルが高い。オンライン予約などを用いて「利用しやすい」施設を目指す。 利用プランについても見直す必要あり。例えば犬都として、ペットビジネスを進めることも検討できる。 自社が運営する施設の運営の中で、「次にどこへ行けばいいかわからない」という来園者からのニーズを感じるため、新しい利用シーン「湖畔マルシェ」などの開催により認知度向上や利用促進につなげるのはどうか。
段階的整備に関する意見	大規模な施設整備よりも、利用者が使いやすい環境整備から段階的に進めるべき 運営形態は、一事業者の独立採算では手を上げる事業者が少ないのではないか。 キャンプ、コテージ、イベントなどを細分化し、それを取りまとめる事業者がいるという考え方

	をしたかどうか。 運営体制を市と民間事業者が連携して運営する体制も考えられる。 ブランディングや利用促進の実証実験を行い、民間事業者が収益を得られる仕組みについても検証する。 自社運営施設では、72 歳のアルバイトスタッフが施設管理を担っている。五色湖エリアでも、他業務や内職等と兼務することで、管理人を配置できる可能性がある。 防犯カメラを導入することで、低予算で現地の状況を遠隔から確認することができ、現地に常駐しなくても一定の管理が可能になる。こうした機器も活用しながら、人員やコストを抑える方法を検討できる。
--	---

5 . サウンディング結果を踏まえた今後の方針

今回の調査では、大館市五色湖エリアにおける民間活力導入に対し、実施可能な事業内容、スモールスタートの可能性、段階的整備に関する意見等について御提案をいただきました。この結果を踏まえて、今後の大館市五色湖エリアの再整備計画の検討を進めていくこととします。